

# 労災情報たかやま (H30.5月号)

高山労働基準監督署  
(安全衛生課)

平成30年(4月末時点)の労働災害発生状況について

## 主要産業の死傷者数

注1)カッコ内は死亡者数  
注2)死傷者数は休業4日以上のもの

	H30年		H29年		H28年 (参考)		対前年比 増減数		対前年比 死傷者数 増減率
	死傷者数	死亡者数	死傷者数	死亡者数	死傷者数	死亡者数			
全産業	56	(2)	56	(2)	40		0	0.0%	
製造業	14		9		16		5	55.6%	
建設業	7		9		4		-2	-22.2%	
運送業	4		5		3		-1	-20.0%	
林業	9		5	(1)	1		4 (-1)	80.0%	
その他	22	(2)	28	(1)	16		-6 (1)	-21.4%	

## コメント

平成30年4月末時点の休業4日以上労働災害による被災者数は56人と、前年と同数であり、過去最少であった平成28年に比べると、16人(40.0%)の増加と、高止まりの状況にあります。

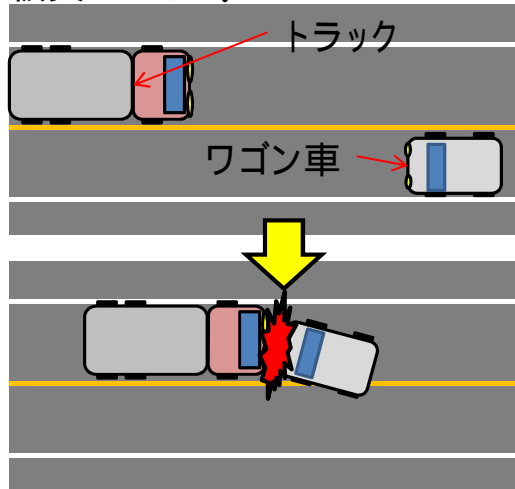
事故の型別に労働災害発生状況を見ると、「転倒」が最も多く、次いで「墜落・転落」となっており、これらの災害で全体の半数を占める状態となっています。

業種別に労働災害発生状況を見ると、製造業、林業が増加していますが、冬季の休工期間が終了し、工事の本格化を迎える建設業や、春の行楽シーズンを迎え、飛騨地区を訪れる観光客の増加に伴い、旅館業や飲食店等の第三次産業における労働災害の増加が懸念されます。

## 重大災害発生!

### 災害発生状況

出張作業を終えた労働者の運転するワゴン車が、帰社途中に道路のセンターラインをはみ出し、対向するトラックと接触し、ワゴン車に乗っていた3名及びトラックの運転者1名の計4名が被災した。



### 再発防止対策

出張からの帰社には余裕を持った時間を確保し、必要に応じて休憩等をとること。

複数名での出張の際は、特定の者に運転による疲労が蓄積されないよう、運転を交代制にするなど配慮を行うこと。

後部座席に搭乗する者についても、シートベルトの着用を徹底すること。

## STOP! 熱中症

平成30年5月～9月

## クールワークキャンペーン

実施期間：平成30年5月1日から9月30日まで（準備期間4月、重点取組期間7月）



飛騨地区においても、例年、熱中症による労働災害が発生しています。特に、今年は春先から非常に温暖で、4月には半袖が必要なほど暖かい時期もあったことから、今後は熱中症への警戒が必要です。

暑さ指数(WBGT値)の把握、休憩場所の整備、日常の健康管理など、十分な熱中症対策をお願いします。